17. Mar. 2017
Vol.31/17

業績と利益において過去最高を達成したポルシェ

従業員は過去最高の約 28,000 人に

ポルシェ AG（本社：ドイツ、シュトゥットガルト 社長：オリバー・ブルーメ）は、創業以来最良の年となった 2016 会計年度において、販売台数、売上高、営業利益、および従業員数において過去最高を達成しました。販売台数は 6%増の 237,778 台、売上高は 223 億ユーロ（4%増）、そして営業利益は 14%増の 39 億ユーロという飛躍的な伸びを実現しています。特に営業利益率は、15.8%（2015 年）から 17.4%へと見事な成長を示しました。2016 年末の従業員数は 13%増の 27,612 人に達しています。

ポルシェ AG の取締役会会長を務めるオリバー・ブルーメは、シュトゥットガルト-ツッフェンハウゼンで開催された会計報告において次のように述べました。「好調な業績は、ポルシェの戦略の質の高さを証明しており、価値創造的な成長を示します。私達は顧客の高い満足度、そして会社の堅実な利益と安定した職場のために焦点を合わせています。」

財務および IT 担当の取締役会副会長であるルッツ・メシュケは、「ポルシェは、17%を超える営業利益率によって世界で最も収益性の高い自動車メーカーの地位を維持しています。このような業績の鍵となるのが我々の独創的な製品構成と健全な費用構造です」と強調しました。長期間にわたる為替ヘッジ戦略も、記録の達成に大きく寄与しました。「世界各地の経済的および政治的な不確実性にもかかわらず、ポルシェは、2017 会計年度の販売台数と売上高に関して安定した成長を予測しています。為替レートが安定している限り、営業利益についても前年度の業績維持に努めます。ニューパナメーラ、特にプラグインハイブリッドモデルとスポーツツーリスモによる活性化が予想されます」とブルーメは続けました。

ポルシェは未来のモビリティを見据えています。結果として、2016 会計年度の研究開発費は 22 億ユーロに達しました。新しいプラグインハイブリッドモデルと純粋な電気自動車であるミッション E の開発、そしてデジタライゼーションへの投資を継続しています。「デジタライゼーションへの投資は、最新テクノロジーへの投資を上回ります。これは新しいビジネスチャンスを生み出し、顧客のメリットを増やし、製造工程をさらに効率的にします」とメシュケは続けます。ポルシェは 2016 年、ポルシェ デジタル GmbH をルートヴィヒスブルクに、ポルシェ デジタル研究所をベルリンに設立し、ベンチャーキャピタルファンドの e.ventures とパーキングサービスプロバイダーの Evopark への出資も行いました。「中期的には、デジタルサービスを通して 2 桁のパーセンテージの売上高を生み出すことを望んでいます」とメシュケは締めくくりました。

「弊社は、ポルシェ ストラテジー2025 に沿って未来のための準備を行います。未来のモビリティにおいて、純粋に心を高ぶらせるスポーツカーと同様に新しいテクノロジーと電化にも力を注ぎます。ポルシェの伝統を重視しながら同時に未来のスポーツカーを創造します」とブルーメは説明しました。

＜本件に関する読者からのお問い合わせ先＞
ポルシェ　カスタマーケアセンター　０１２０－８４６－９１１
ポルシェ　ホームページ http://www.porsche.com/japan/